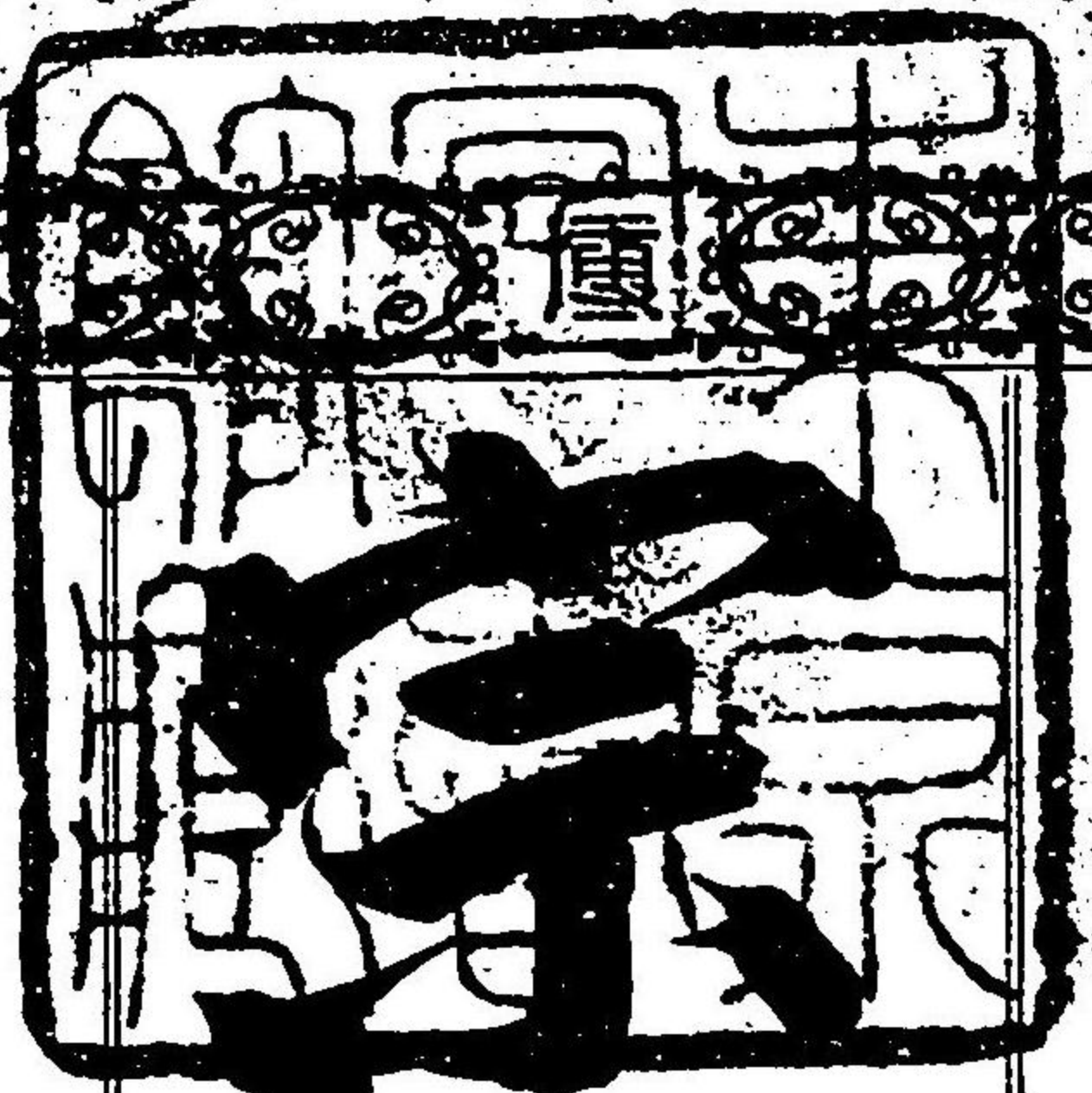


明治十九年七月十九日内務省贈付 219

河田鑄也譯

宗教日本魂

博習社藏



18-44

1029

下

社

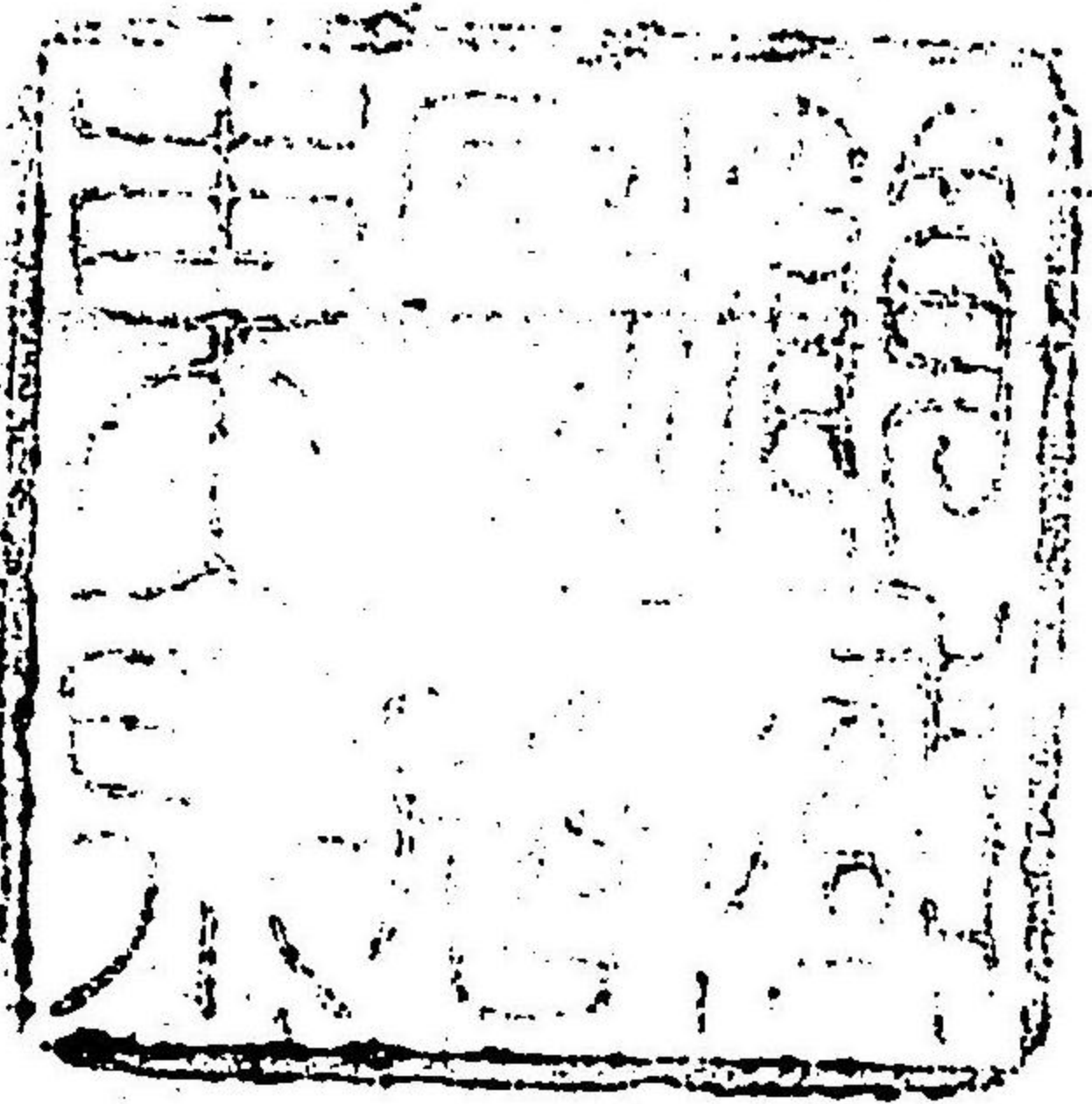
東

聞

序

天體ノ運動セサルヲハ吾之ヲコベルニカス氏ニ聞キ地形ノ球
圓ナルヲハ吾之ヲコロンブス氏ニ聞キ引力ノ説ハ吾之ヲニウ
トン氏ニ聞ケリ而シテ此等ノ説ハ皆一タヒ出テ、天下復タ是
非ヲ争フモノアルヲ聞カス其宇宙ノ至道ニシテ年ヲ更ヘ人ヲ
異ニシ以テ之ヲ究ムルモ盡ク一途ニ出ルヲ以テニ非スヤ然リ
而シテ古ヨリ衆論紛々愈出テ、愈異ナリ今ニ至テ猶ホ一ニ歸
セサルモノハ天下唯一ノ宗教アルノミ聖曇氏ハ婆羅門教ヲ舐
排シテ印度ニ起リ耶蘇氏ハ猶太教ヲ攘斥シテ猶太ニ興リマホ
メツトハ耶蘇教ヲ盜テアラビヤニ據リ佛ニ十三宗アリ耶蘇ニ
三大派アリ而シテ又更ニ幾多ノ小流ヲ存シ各其説ヲ異ニシテ
復糾合ス可ラス誰カ其是ナルモノヲ擇テ之ニ就カン又誰カ其

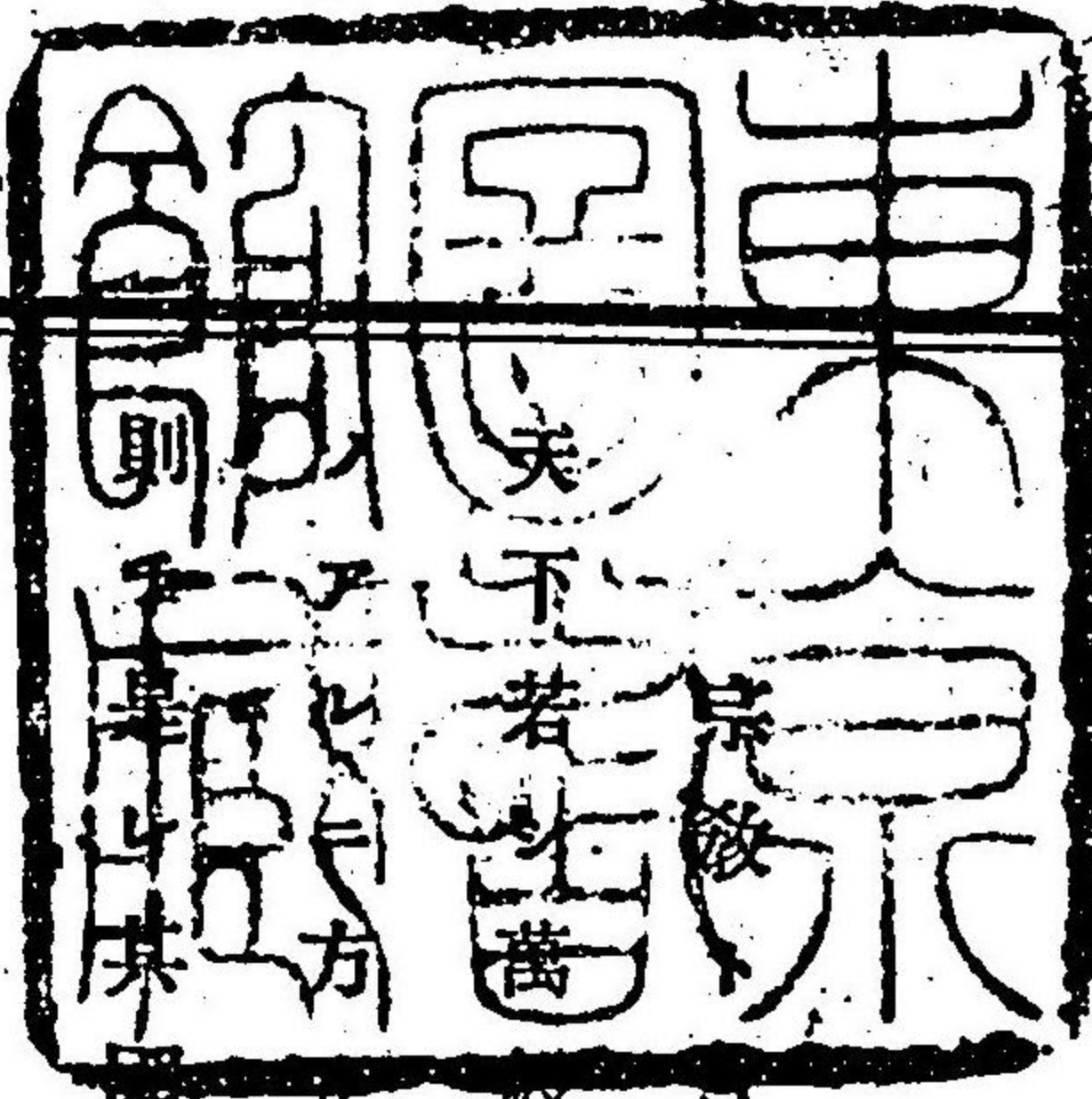
是ノ非ニ非ルナキヲ知テ之ヲ排斥センヤ之ヲ要スルニ宗教ナ
ルモノハ皆無形ヲ本トシ無象ヲ論スルモノナレハ目視テ其是
非ヲ分ツ可ラス手觸レテ其虚實ヲ覺ル可ラス各其是非ヲ以テ
他ノ是非ヲ是非スルニ過キス異説ノ紛々タル亦宜ナラスヤ然
リト雖至道ハ年ヲ更フルモ邪正ヲ一ニセス眞理ハ人ヲ異ニス
ルモ是非ヲ同フセサルモノナレハ安ソ太陽一タヒ出テ、百怪
跡ヲ藏ムルノ日ナカラシヤ人各其是非ヲ以テ他ノ是非ヲ是非
シテ可ナリ英人デニング氏夙ニ我國ニ客遊シ我民情風俗ニ於
ル頗ル得ル所アリ頃者本論ヲ述テ「シヤパンマイル」ニ投ス固ヨ
リ一家ノ是非タルヲ免レスト雖外人ノ眼ヲ以テ我宗教上ノ思
想ヲ觀察シタルモノナレハ予輩ノ平生聞ク所ニ異ナルモノ少
カラス是レ予カ氏ノ論ヲ譯シテ世ニ公ニスル所以ナリ



宗教ト日本魂

宗教ト日本魂 第一

英國 ダブルユー、デニング氏 述
日本 河田 鱗 也 譯



カノ日本ノ神道、印度ノ婆羅門教ニ於ルガ如ク其教化ト宗教心
ノ相密着シテ分離ス可ラザル邦國ニ在テ國民擧テ一種ノ宗教
ヲ信奉スルニ至レバ其宗教ハ實際其國中ニ發生シタルモノニ
非ルモ(政道自然ノ外物國民一般ノ智識及ビ道義ノ勢力ヨリ生
シタルモノニシテ)僅カニ數百歳ヲ經過シ後生ノ識見以テ全體

ノ相類似セル所ヲ去テ其差異ノ顯著ナルモノヲ辨別スルニ足
ルモノヲシテ之ヲ見セシメバ則チ其宗教ヲ以テ古代ノ宗教ノ
遺幹ニ接ギタル新枝ノ如キ觀ヲナス可ク而シテ之ヨリ生シタ
ル結果ハ雜然トシテ一ナラズ各一派ノ新教ヲナスニ至ル可キ
ナリ此ノ如ク國民ノ性質ト其宗教トノ關係ハ極メテ親密ナル
ヲ以テ天下ノ一大宗教ノ大ニ其性質ヲ異ニセル他國ニ入りテ
其信仰ヲ受ルニ至ルノ始終ヲ探究シ且凡テ一國民ガ特殊ノ宗
教ヲ信シ或ハ一般ノ宗教ヲ奉ズルニ至レル所以ヲ明カニスル
ハ決シテ無益ノ業ニ非ルヲ以テ予ハ日本ノ宗教ノ國民ノ性質
ト相密着スルニ至レル所以ヲ論ゼント欲スルナリ蓋シ思ヘラ
ク近來日本ノ新聞雜誌ハ頗ル意ヲ宗教ニ注グニ至リ其論ズル
所ハ大ニ潜思熟慮ノ後ニ發スルモノナレトモ之ヲ酷評スレバ寧

〇
口模糊錯繆ヲ免レザルヲ以テ予輩外國人ノ筆ヲ執テ少シク此
問題ヲ論ズルハ又必要ノ一ナル可シト
夫レ歴史ハ古今ノ成敗ヲ記スルモノナレバ昔日ノ志士ガ一旦
事アルニ方テ其身ヲ處シタル所以ノ道ヲ知レバ以テ他日同一
ノ事變アルニ臨ミ身ヲ以テ之ニ應ズルノ道ニ於テ中ラズト雖
蓋シ遠キニ非ル可シサトウ氏(前東京駐紮英國公使館書記官)ハ
數年前深ク日本ノ宗教ヲ究メ爾後之ガ說ヲナシテ曰ク日本人
ノ宗教上ノ感覺ハ之ヲ各國民ニ比スルニ頗ル淺薄ナルモノナ
リト而シテ又日本人中思慮深キ論者ノ言ニ曰ク日本人ハ更ニ
宗教ニ頓着スルモノニ非ズ故ニ若シ曾テ我が國人ノ腦裡ニ宗
教心アリタリトセバ其心ハ已ニ全ク消滅シタルモノナリト而
シテ自ラ以テ誣ヒタリトナサズ且内外國人ノ之ト說ヲ同フス

ルモノ亦少カラザルナリ抑モ此問題ハ方今ニ在テハ敢テ有益
ノモノニ非ズト雖内外國人ニシテ先見ノ明アルモノハ皆何派
ノ耶蘇教カ久シカラズシテ必ズ日本國中ニ流布ス可シトナセ
リ而シテ較疑フ可キモノハカノ無學ノ徒ハ之ヲ信奉セントス
ルニ方テ大ニ妨碍ヲナスモノアラザレバ其何派タルヲ問ハズ
之ガ教ヲ聽キテ直チニ之ニ歸依ス可キヤ否ヤニアリ然リ而シ
テ最モ予輩ノ利益トナル可キモノハ教育アル日本魂ハ日本ニ
宣教師ヲ派遣セル耶蘇教ノ三大派ガ其信文ニ註釋シ且其訓言
宗教雜誌等ニ説明セル教義ト何如ナル關係ヲ有スルヤニアル
ナリ故ニ予ハ此關係ヲ明カニセンガ爲メ先ツ簡單ニ日本ノ學
者ガ年來此國ニ行ハル、三種ノ宗教ヲ處シタル方法ヲ尋究シ
次ニ耶蘇宣教師ト日本牧師ノ說法トハ何レカ其祖先ノ宗教ニ

勝レル感化カト一般ノ歸依トヲ有スルカヲ論セン
歐米諸國ニテハ古ヨリ宗教ノ性質ニ付キテ辨論駁撃紛々トシ
テ止ムヲナク遂ニ之ヲ以テ上帝ト靈魂トノ理ヲ教フルモノナ
リトノ定義ヲ下シタルモノ多カリシモ未ダ以テ論争ノ根柢ヲ
覆ヘスニ足ラサルナリ而シテ今予ハ世上ノ學者ガ下シタル宗
教ノ定義中ヨリ其一ヲ擇ミ斷然日本人ヲ以テ宗教ノ民ナリト
云ハントスカノ自然宗教ノ著者曰ク宗教ハ永ク人心ニ感染シ
タル欽仰ノ感覺ナリトハーバート、スペンサー氏曰ク驚異ノ感覺
ナリトマシユ、アーノルド氏曰ク道義ト情緒トノ結合シタル
モノナリトシエリ、ング氏曰ク直覺力ナリトヘーゲル氏曰ク思
想ナリト蓋シ日本人ノ宗教上ノ感覺ハ決シテ世ノ批評家ノ云
フガ如キ淺近ナルモノニハ非ルナリ予輩ノ此等ノ定義ニ從フ

ヲ肯ゼザル所以ノモノハ其予輩ガ平生宗教ト稱スルモノ、形
狀特質ヲ含マザルガ爲メニ非ズ蓋シ此等ノ定義ハ世ノ公論ニ
非ズシテ寧ロ藝術ト學問上ニ屬シ他ノ學問上ノ定義ノ如ク他
説ヲ排除シテ獨リ全勝ヲ制セント欲スルモノニ非ルガ爲メナ
リ其他世ノ宗教ニ付テノ學語定義ハ頗ル多シト雖世間普通ノ
語ヲ用非以テ之ヲ明カニスルニ如カザレハ予ハ世ノ不可思議
ナル實在ヲ所念スルニ熱心ナルモノ、宗教上ノ供役ヲ恪守スル
モノ、所願ノ力ニ由テ冥福ヲ得可シト信ズルモノ之ヲ宗教家ト
云フナリ故ニ此等ノ人々ハ上帝ヲ以テ世界ノ事物ニ關涉スル
ノ實在トナシ而シテ其關涉ノ天命ナルト奇靈ニ屬スルトヲ問
ハズ必ズ未來ノ賞罰アルヲ信スルモノナリ今自然宗教ノ著者
ハ宗教ナル語ノ意義ヲ擴張シテ獨リ人心ノミナラズ無生物ニ

モ存スル所ノ愛情、欽仰ノ感覺ヲモ含蓄セルモノニシテ宗教、禮
拜ナル語ハ予輩ガ上帝ニ對スル感覺ニ誤用シタルモノナリト
云ヘリ著者又曰ク欽仰ノ感覺ノ甚ダ強キハ必ズ其行爲ニ發
ス可ク若シ其強キノミナラズ重大永久ナルキハ自ラ其再發ノ
行爲ニ顯ハレ由テ以テ禮典、禮拜式其他宗教ニ類似スルモノヲ
起スナリト予輩ハ此等ノヲ論ズルニ方リ道義ノ基本即チ人
ノ其同類ニ對スル關係ノ由テ起ル所以ヲ尋子ズ只方今ノ改良
進歩シタル日本人ガ公私ノ禮拜式ニ臨ミ或ハ堅ク上帝ノ實在
威力ヲ尊信シ且禮拜ヲナスニ方リ未來ノ賞罰ヲ以テ其意ノ誠
僞何如ニ依テ起ルモノナリトナス所以ノ程度何如ヲ探究セン
ト欲スルナリ試ミニ逐次三種ノ宗教ヲ論シ其中ノ何如ナル元
素カ日本魂ヨリ生シタルカヲ明カニセン

予ハ先ツ神道ヨリ論ズ可シ然ルニ往古ノ神道家ガ其虛妄ナル諸神ニ對スルノ感覺ヲ稱シテ宗教ト云フハ頗ル困難ナルヲニシテカノ古事記ノ翻譯者ガ云ヘルガ如ク諸神ノ一ハ大抵其死後ニ記シタルモノナリ予ハ今古代ノ神道ハ幾多ノ宗教ノ元素ヲ具ヘシカヲ示サンガ爲メニチャンパーレイン氏ノ古事記翻譯書ノ緒言中ヨリ此事ヲ論シタル數語ヲ引用ス可シ氏曰ク先ツ學者ノ感覺ニ觸ル、モノハ予輩ガ日本古代ノ宗教ト稱スルモノハ固ヨリ儼然タル一派ノ宗教ニ非ルヲ以テ頗ル其適當ノ名稱ヲ欠ケル一是ナリ又予輩ハ神道ニハ教會ノ箇條道義ノ大法及ヒ佛教、耶蘇教、回々教ニ於ルガ如キ聖經アリテ權威ヲ以テ之ヲ遵奉セシムルヲアルヲ見ズト又氏ハ古代ノ神道家ガ尊信シテ禮拜ヲ捧ゲタル神ヲ論シテ曰ク故ニ日本ノ神ナル語ヲ譯

スルニ英語ノ「ダイチイ」ナル語ヲ用井ント欲セバ西洋人が慣用スル意義ヨリモ其等位ヲ低降セザル可ラズ蓋シ日本ノ神ノ如キナル語ハ元來優長者ノ義ナレハ我々西洋人が神ト崇ムルナル語ト同一ニ見ナスホハ其意義廣キニ過ク可シ即チ伊弉册神ガ其敵人又ハ凡テ自然ノ物體ヲ稱シタルガ如シ又若干ノ衆神ヲ併セテ惡神ト記セル一五月ノ蒼蠅ニ於ルガ如キヲアリ然レ善神ト惡神トノ間ニハ判然タル區別アルニ非ルヲ以テ實際神ナル語ハ日本古代ノ諸神ニ適用ス可ラザルナリ故ニ古代ノ神道家ガ禮拜ヲ行ヒタル主體ハ其數頗ル多シトス而シテ近來日本ノ識者ノ此ノ如キ古代ノ諸神ニ付テノ說ハ只一アルノミ即チ此等ノ禮拜ヲ行ヒタル主體ハ全ク虛妄ニシテ眞誠ノモノニ非ル是ナリ又前ニ引用シタル譯者ノ說ニ從ヘバ方今ノ日本人

ハ凡テ宗教ノ一ニ疑ヒ深ク(識者百人中九十九人マデ)諸神ノ歴史ノ如キハ之ヲ聞クヲ好マズ或ハ全ク拒テ容レザルモノアルガ如シト予ハ又是ヨリ轉シテ來世ノ禮法、儀式、禮拜、信奉ノ主體ヲ論セントス古代ハ諸神ト死者ニ食物ヲ捧ゲタルヲアリ然レ之ヲ以テ宗教ノ感覺ノ強キヨリ生シタルノ徵証トナス可ラズ今例ヲ葬式ニ取ランニ此事タル獨リ宗教人民ノミナラス無宗教ノ人民ト雖見テ以テ宗教上ノ禮法中最鄭重ナル所ノモノトナス可キナリ又譯者ノ推考セルカ如ク此ノ如キ場合ニ開キタル酒宴ニ列レルモノガ諸神及ビ死者ノ神ニ具ヘタル食物ノ一部分ヲ食フハ予ノ古事記中ニ見ル所ナリ又禮拜ノ主體ノ狀ヲ案スルニ古事記中一ノ特例ヲ除クノ外ハ諸神中ノ談話ヲ記セルト多シト雖曾テ禮拜ノ一ヲ錄セス且常ニ宗教ノ感覺ノ極メ

テ強キ人民中ニ聞クカ如キ拜神ノ狀アリシヲ見ズ隨テ頌歌ヲ用フシトナシ故ニチャンパーレイン氏ハ諸記錄中ヨリ一百十一首ノ和歌ヲ集輯シタルニ一首モ宗教ニ關スルモノナシト云ヘリ且其他ノ信仰ノ箇條ニシテ諸國民ノ宗教ニ具ハルカ如キモノ(未來ニ賞罰アルノ信仰)アルナシ古事記ノ譯者曰ク古事記中ニハ死後ノ有様ヲ記サス且死シタルモノハ來世ニ於テハ善トナルカ將タ惡トナルカ更ニ説ケル所ナシト予ハ古代ノ神道家ノ宗教上ノ意見ヲ述ルニ方テ獨リ古事記ト其翻譯者ノ貴重ナル緒言中ノ評論トノミニ論及シタルモノハ他ニ信ヲ置ク可キノ書ナク獨リ古事記ハ古人ノ手ニ成レルヲ以テ復之ニ勝レルモノアラサレハナリ而シテ佛教ノ一度ヒ侵入シテヨリ、後ハ爲メニ神道ノ性質ヲ變化シ永ク宗教ノ信者ヲ

シテ只其道ノミニ歸依シ以テ安ンヌルヲ能ハザラシムルニ至
 レルハ世人ノ能ク知悉セル所ナリ抑モ古ヨリ日本ノ識者中ニ
 存シタル佛教勢力ノ盛衰ヲ按スルニ其曾テ多數ノ學者ノ注意
 スル所トナリタルヲアルハ爭フ可ラサルノ事實ニシテ佛教ノ
 始メテ宣布セラレタルキハ許多ノ緊要ナル形狀ヲ具備セシヲ
 以テ頗ル世ノ注意ヲ惹クヲ得タリ蓋シ佛教ノ日本ニ輸入シ
 タル文學ハ甚々華美ナルモノニシテ哲學ノ思想ニ富ミ大ニ人
 心ニ入り易ク(其文字ハ印度ノ意匠ノ至深至良ナルモノヲ具ヘ)
 當時其建築シタル大堂宇ハ莊嚴華麗ヲ究メテ日本人ノ耳目ヲ
 驚カシ其僧侶ノ敏捷慈惠克己ノ心ハ之ガ熱心ヲ見テ奇異ノ念
 ヲナシタル當時ノ人民ト日ヲ同フシテ語ル可ラス又當時有爲
 ノ人々カ漢土ノ文字ヲ修メタルノ熱心ハ近年ノ學者カ西洋文

學ノ野ニ耕ヘヌノ奮勵ニ比シテ更ニ劣ラサリシカ如シ然リ而
 シテ佛教ノ文學ハ印度ノ思想ニ富ミ曖昧錯雜ナルヲ以テ全ク
 其性理上ノ區別ノ虛妄ナルニ迷ヒ且其外形ノ莊嚴ナルニ眩惑
 セラレテ其正邪ヲ辨別スルヲ能ハサルモノ、注意スル所トナ
 リタリ故ニ當時ニ在テ佛教ヲシテ世ノ宗教中最モ歸依スルニ
 足レリトナスニ至リシハ全ク其玄妙不可思議ナルニ依レリト
 云フ可シ然ラバ則チ極メテ簡單茫漠タル宗教ヲ去テ最モ複雜
 明瞭ナル教法ニ移リ信仰ヲ表彰スルノ教條ナク且道義ノ大法
 ナキ神道ヲ出テ玄妙不可思議ナル佛教ニ入り而シテ神道ノ之
 ヲ制スルヲ得サリシハ苟モ世道變遷ノ歴史ニ通シ且人心衝
 動ノ作用ニ由テ此ノ極端ヨリ彼ノ極端ニ移リタル所以ヲ知ル
 モノ、明カニ知得セル所ナリ西洋ニテカノ「ウエスレヤン」ノ儀

式家トナリ舊教家ノ不信者トナリタルガ如キハ東洋ノ日本ニ
 テ神道ヨリ佛教ニ移リタルト正ニ其趣キヲ同フセルモノナ
 リ
 抑モ佛教カ學者ノ傾聽ヲ得タルハ暫時ノ間ニ過キス決シテ永
 グ驚異ノ念ヲ存セシムルニ足ラザリシナリ而シテ當時日本ノ
 佛教ノ僧侶ハ中世歐洲ノ舊教僧侶ト同シク教育ノ點ニ於テハ
 懸カニ俗人ニ勝リ又日本ノ寺院ハ歐洲ノ寺院ノ如ク國內ノ學
 者ノ集合スル所トナリ佛教ニ通達セルモノハ之ト同時ニ當時
 智識ノ寶庫ヲ開クノ鍵トモ稱ス可キ支那語ニ通達シ且其他ノ
 事物ハ一トシテ支那語ヲ修メント欲シタル俗人ノ心ヲ惹カサ
 ルモノナカリシヤ疑フ可ラス故ニ智者ハ其古代ノ國語ノ用井
 テ以テ性理上及ヒ宗教上ノ名稱トナス可キモノナク佛教ノ文

字ハ此欠乏ヲ補フニ足レルヲ覺リタルモノニシテ今日日本ノ
 通語トナリタル佛語ハ此時ノ熱心ナル學者カ傳ヘテ後生ニ貽
 リタルノ餘澤ト云フ可シ

此時代ノ學者ハ佛者ノ奇異ノ談輪廻ノ說地獄極樂其他不可思
 議論ニ本キタル許多ノ教ヲ聽キテ實際以テ眞ナリトシテ之ヲ
 信用シタルヤ否ヤハ予ノ將ニ論セントスル問題ナリ而シテ中
 世有識ナル武士カ禮拜式ノ頌歌ヲ唱ヘ經文ヲ讀ムヲ聽キ且寺
 院ニ參詣シテ其心中ニ幾何ノ宗教感覺ヲ起シタルカハ予ノ知
 ル所ニ非ルナリ若シ此感覺ニシテ甚タ深カリセハ上古中世ノ
 他國ニ見タルカ如ク必ス永續シテ俗間ノ學者カ大宗教ノ問題
 ヲ論スルニ方テ助ケテ一個ノ文學ヲ創成シタリシナル可ク且
 果シテ存在シタリトセハ日本ニ在テモ亦他國ニ於ルカ如ク僧

侶ノ誤謬偏見ヲ覺破シテ一個ノ文學ヲ創成シタルヤ必セリ而
 シテ其徵ノ今ニ至テ存セサルモノハ事ノ此ニ出テサリシカ爲
 メニシテ佛徒ノ其教ヲ信スルハ漸ク學者ノ公然或ハ竊カニ嘲
 笑スル所トナリ且其教法ノ嚴肅ナルト生活ノ理法ノ分明ナラ
 サルトハ昔日ノ希臘人ニ類シテ爽快活潑有爲不撓ノ性ヲ稟ケ
 人類生存ノ極メテ明白ナル事實ヲ看破スルノ明ヲ具ヘタル此
 國民ノ心ニ適ハサルニ至リ其地獄ノ數部ニ分レ涅槃ニ入テハ
 人ニ生死ナク只現世ニノミ之アルモノトナスガ如キ(欲心願望
 及ヒ之ヲ成就スルノ力)談説ハ盡ク笑柄トナラサルモノナク其
 識者ノ心ニ於ルハ宛カモ亡魂論ノ歐洲ニ於ルニ異ナルヲナシ
 又カノ地獄ノ沙汰モ金次第ナル謬ノ國中一般ニ行ハレタルハ
 曲亭馬琴氏ノ時ヲ去ルヲ遠カリシヲ見レハ則チ中世ノ人カ佛

教ヲ以テ僧侶ノ假托ニ出テタル方便ニシテ無學者ヲ誘フノ工
 夫タルニ過キストナセシヤ知ル可キナリ
 此ノ如クナルヲ以テ佛教ガ其純然タル宗教元素ニ由テ俗間ノ
 學者中ニ瞞望ヲ得タル所以ハ決シテ証明ス可カラザリシモノ
 アルナリ且此言ニシテ誤リナカラシムレバ之ヲ証明スルハ頗
 ル困難ノ事ナリト云フ可シ然リ而シテ中古佛教ノ此國ニ入ル
 ニ方テ携ヘ來リタルモノ、國民ノ注意ヲ促カシタルニ由リ當
 時ノ人民ハ之カ爲メニ其不可思議ノ説ニ信服シタルモノナリ
 トセハ則チ其不可思議説ハ永ク識者ノ腦裡ニ感得シタルモノ
 ニ非ルナリ故ニ數百年ヲ經テ再ヒ古代ノ精神ヲ發起シ宗教ヲ
 以テ道義ト別物ナリトナシ全ク之ヲ拒絕スルニ至リシナリ
 予ハ是ヨリ轉シテ日本人カ孔子ノ道ヲ遇シタル方法ヲ考フル

ニ其民望勢力ハ第六第七世紀ノ學者カ大學中庸論語ヲ學ヒ始
メテヨリ以テ近年ニ至ルマデ曾テ衰ヘタルトナク其說ク所ハ
盡ク日本魂ノ所要風習意向ニ適應シ其文章大聖ノ言論及ヒ其
思想ノ方法ハ此國ノ民心ヲ教化シ盡サ、ル所ナキヲ以テ假ヒ
其心ノ特質ヲ取テ之ヲ解剖スルモ決シテ除去スルトヲ得可ラ
サルニ至レリ孔子ノ道義、哲學ノ大ニ民心ニ適シタルト此ノ如
クナルヲ以テ國人ノ說ヲ聽キ且其書ヲ讀テ之ニ依信セハ他ニ
何如ナル道理アルモ曾テ不可思議ノ實在ヲ迷信スルニ至ラス
且道義ト區分シテヨリ宗教ノ之カ下ニ位スルニ至リシハ此教
法ヲ繼續シタルノ一大原因ナリ而シテ孔子ハ諸神ヲ祭リ祖先
ノ靈ヲ拜スルノ道ヲ教ヘタルト少ナク又天ナル語ニ附スルニ
人格ヲ以テシタルト稀ニシテ宗教ノ本質ヲ去ルト甚々遠カリ

シヲ以テ其說ニ由テ一種ノ宗教理論ヲ構成スルヲ得可ラサリ
シナリ予ハ若シ餘間アラハ博ク其說ヲ引用シテ之ヲ明カニセ
ント欲スルモ其宗教上ノ說タル大抵方今日本ノ論者ノ說ト相
同シキヲ以テ敢テ引用スルニ及ハサル可シ然リ而シテ未タ支
那哲學ヲ知得セサルモノニハ博引旁採スルニ非レハ以テ曉ラ
シムルニ足ラスト雖モ是レ予ノ得テ爲ス可ラサル所ナリ
故ニ孔孟ノ宗教上ノ言論ハ假ヒ何如ナル隱語アルモ其勢力ハ
以テ方向ノ何如ヲ問ハス必ズ日本ノ人心ヲ改造スルニ足リシ
トハ決シテ誣言ニ非ルナリ而シテ日本人ハ孔子ノ道ノ傳來ス
ルマテハ古ヨリ其國風ニ從テ國神ト祖先ノ靈ヲ拜シタリシモ
一旦傳來ノ運ニ會シテヨリ其最モ民心ニ適シタルモノハ其倫
理ノ法則ニシテ今ニ至ルマテ盡ク日本人カ道義ヲ立ルノ基礎

トナリタリ

〇

然リ而シテ孔子ノ道ノ今後其勢力ヲ繼續シテ幾世幾年ニ及フ可キカハ豫メ得テ言フ可ラスト雖モ之ヲ用非テ道義ノ法則トナス可キハ固ヨリ封建ノ時勢ニアルヲ以テ方今一感覺ノ日本ノ人心ニ傳播スルモノアリ即チ其道ハ西洋文明ノ精神ト相協ハサルヲ以テ久シク東洋ニ雄トシテ諸大派ヲ壓倒シタルモノモ漸ク將ニ式微ニ赴ク可シトナスト是ナリ日高眞實氏ハ六月(十八年)發兌ノ東洋學藝雜誌ニ孔子ノ道ト東洋文明ノ關係ト題セル一篇ノ論ヲ掲ケ孔子ノ道ヲ以テ東洋文明ノ進歩ヲ妨碍スルモノトナシ其猶ホ我カ國人ノ心意ヲ離レサルハ眞ニ嘆ス可キトナリト云ヘリ

予ハ日本人ノ他ノ諸國民ニ比シテ宗教心ニ乏シキトハ歴史上

ノ事實ノミナラス内外識者ノ共ニ是認スル所ナルヲ云ヘリ蓋シ日本人ハ支那人ト同シク獨リ形而上ニ屬スル性理的思想ノ高尙ナルモノヲ嗜ムノ風ナキノミナラス道理ニ訴フルモ其眞理ヲ發見シ得サルカ如キ宗教ノ神秘ヲ信スルヲ屑シトセサルナリ然リ而シテ支那ノ哲學者ハ一二ノ其本ヲ印度哲學ニ得タルモノヲ除クノ外ハ觀念ヲ論スルニ方リ只心意ノ行爲ニ發スルヲ待テ其自然ノ偏癖ヲ尋ヌルノミニシテ決シテ抽象的ノ研究ヲナセシトナク其宗教ニ於ルモ亦之ニ異ナラス故ニ其宗教トスル所ハ則チ行爲ノ宗教ニシテ之ヲ信奉スルヲナク寧ロ之ヲ利用シタルモノト云フ可ク且日常生活ノ事業ト利益トヲ取テ宗教ヨリ分離スルモハ毫モ之ニ關心セサリシモノナリ而シテ日本人ハ宗教ノトニ付テハ盡ク一意以テ支那人ノ爲ス所

ニ倣ヒタルモノナリヲ以テ其禮法、儀式ニ於ルノ觀念ヲ察スル
 ニ或ハ上帝ニ對スル尊敬ノ所爲トナシ或ハ不可思議ナル默示
 ヨリ起レル宗教上ノ法則ノ一部ニシテ苟モ其教法ヲ信スルモ
 ノ、擧テ免ル可ラサルノ義務トナシ之ヲ行フヲ以テ其身ノ名
 譽トナシタルモノナリ而シテ方今日日本ノ學者紳士ノ大目的ハ
 正義、誠實、廉直ヲ離レス道理ニ循據シテ情欲ニ制セラレス身ヲ
 忘レテ信ヲ朋友恩人ニ盡シ且貧賤、利欲ノ爲メニ其志ヲ枉ケサ
 ルニ止マリ是ヨリ又一歩ヲ進ムルヲ願ハス只書ヲ讀テ以テ人
 間事物ノ通則ヲ知得スレハ更ニ其他ヲ求メズ豈ニ僧侶ニ由テ
 其理想ヲ運ラスノ方法ヲ學フヲナサンヤ故ニ來世ノ生活之ニ
 伴フノ賞罰、此世界ヲ創造シテ其事業ヲ管理スル上帝ノ存在ノ
 如キニ至テハ毫モ知得セル所ナク之ニ語テ此ノ如キトハ其眞

ヲ知ルヲ得可ラスト云フモ猶ホ其言ヲ信スルノ傾向アルハ古
 ヨリ今ニ至ルマテ有識ナル日本魂ノ一般ノ宗教ニ於ルノ形狀
 ナリ故ニ予ハ近年此國ニ輸入シタル教法ノ力ヲ藉テ器械トナ
 スモ猶ホ其根本ヲ變セシムルヲ能ハスト云ハントスルナリ
 歴史ニ由テ往事ノ興廢ヲ鑑ミ以テ將來ノ成敗ヲ察スルハ明達
 ノ政事家ニ非スンハ則チ能ハサルナリ予輩モ今ノ世ニ在テ一
 ノ問題ヲ究ムルニ方リ其兩端ヲ叩テ窮極ニ達セント欲スレハ
 此術ヲ捨テ天下復良策アルヲ知ラサルナリ今假リニ宣教師ヲ
 以テ一方ノ論者トナシ此國ノ學者ヲシテ之ニ對セシメ以テ數
 週前東京ノ有名ナル諸新聞紙カ熱心ニ相論難シタル宗教ノ問
 題即チ日本ノ有識社會ノ將來宗教上ノ有様ハ何如ナル可キカ
 ヲ論セシメハ宣教師ノ意見ハ即チ左ノ如キモノト見ナスヲ得

可シ

第一、日本人ハ宗教ノ不可思議ナル元素ヲ領會セストノ説ハ決シテ謬レリト云フ可ラス然レ予輩ハ深ク教育ノ力ヲ信スルヲ以テ日本人ニ教フルニ世ノ開明國民ノ領會セル所ノモノヲ以テシテ之ヲ化スル能ハサル所以ヲ知ラサルナリ

第二、日本人カ不可思議ナル元素ヲ信スルコトヲ好マサルハ其愚蒙ナルトカノ同シク不可思議ニ屬スル神佛兩教ノ荒唐ナル説ニ迷ヘルトニ非ルカ果シテ然ラハ其迷蒙ヲ啓カハ豈ニ其意向ヲ變スルヲ得サランヤ

第三、是ヲ以テ予輩思ヘラク西洋ノ科學ト哲學ハ自然ト不可思議トヨ分離セル江灣ニ架スルニ橋ヲ以テスルモノナリ而シテ日本人ハ總テ特殊ノ宗教論ヲ離レテ能ク宇宙ニ存在セル萬

物適應ノ理法ヲ解スルヲ得ルハ之ヲ爲スニ適スルノ心ヲ有シテ之ヲ作用ニ發スルノ結果ナリト若シ此言ニシテ謬ラスンハ豈ニ他ノ性質ヲ同フスルモノヲ解シ得サルノ理アランヤ

第四、然ラハ則チ耶穌教カ帶テ以テ此國ニ來ル所ノ至大ノ名聲ハ漸ク以テ國人カ其不可思議論ヲ嫌惡スルノ風習ヲ脱セシムルヲ得サランヤ蓋シ耶穌教ハ世界最上文明國民ノ宗教ニシテ古ヨリ苛酷ノ批評ヲ受ケタルモ百年以前ヨリ歐米ノ大學者ノ概テ信任尊敬スル所トナリ今ニ至ルマテ世ノ最高ナル學者ノ心意ヲ左右シ依然其地歩ヲ失ハサルモノナリ

第五、予輩若シ日本人カ採用セント欲スル文明ノ元素中ニハ其根元性質ノ明カニ耶穌教ニ屬スルモノアルヲ証スルコトヲ得ハ日本人ハ其改良シタル制度中ヨリ之ヲ除却スルヲ得可キカ

且日本人ニシテ一切之ヲ嫌惡シテ容ル、トナクンハ其友愛尊
 敬ヲ得ント欲スル外人ノ好意ヲ失フトナキヲ得可キカ
 第六、日本人ハ道義ヲ離レスンハ固ヨリ宗教ノ有無ヲ論スル
 ヲ要セスト云ヘリ然レモ宗教ヲ離レタル道義ハ頗ル薄弱ナルモ
 ノニ非スヤ予輩ハ未タ天下道義ノ法則中能ク宗教ヲ離レテ力
 ヲ改進道義ノ道ニ致シタルモノアルヲ見サルナリ
 日本ノ學者カ前論ニ答フル所ハ即チ左ノ如クナル可シ
 第一、子等ハ予輩日本人ヲ教育シテ不可思議論ヲ信セシメン
 ト欲スレモ之ヲ爲スハ決シテ容易ノトニ非ルナリ即チ第一ニ
 困難ナルモノハ予輩ノ遺傳力ニシテ幾世幾年ヲ經テ養成シ來
 レル天性ハ容易ニ滅却シ得可キモノニ非ス然リ而シテ數百年
 間世ノ風潮ノ其天性ヲ破壊シタル處ニ在テ之ヲ睡眠ノ中ヨリ

起シ以テ其風潮ヲ支ヘシムルハ極メテ困難ノトニシテ日本人
 ノ宗教心ノ有様ハ正ニ此ノ如キ場合ニアルナリ又子等カ一國
 民ヲシテ不可思議ナル耶蘇教ヲ信受セシメントスルニ方テ困
 難ナルモノハ其教ヘント欲スル人民其先導者助言者ノ之カ教
 育ヲ受ルノ必要ヲ覺ラサルニアルナリ而シテ日本人ハ全ク之
 ヲ信受スルノ必要ナシトノ説ニ信服シ之ヲ用テ却テ西洋ノ論
 者ヲ説服セント欲シ其稱賛スル所ハ耶蘇教ノ不可思議論ヲ學
 ハスシテ行ヒ瑕疵ナク愛敬尊重ス可キ人物ニアルナリ
 第二、予ハ子カ第二説ニ答フルニ方テ敢テ敬意ヲ失ハス且子
 等カ誠意以テ予輩ヲ教化セント欲スルノ辱ナキヲ謝シ然ル後
 言ハント欲スル所ノモノハ予輩ノ眼ヲ以テ子等カ信奉セル經
 典ノ説話ヲ見レハ大抵皆兒戲ニ等シキ迷信ニシテ其信スルニ

足ラサルハ我カ神道佛教ノ說話ノ子等ニ於ルニ過キタリト云
 フニアリ而シテ其迷信ニ類スルト兒戯ニ屬スルトハ全ク其見
 解(即チ用非テ之ヲ判斷スルノ本位ニ)ノ何如ニ依ルモノニシテ
 子等ノ平生云ヘルカ如ク此ノ如キ說話ハ神ノ默示ニ屬スルヲ
 以テ宜シク之ヲ信受ス可シトセハ則チ是レ其問題ヲ質議辨論
 セスシテ先ツ神ノ默示ナルモノアリトナシ次ニ子等ノ所謂ル
 經典ハ其默示ヲ含有シ我カ神佛兩教ハ則チ然ラスト假定スル
 モノナリ

第三、予ハ子ノ第三説ニ答ヘテ云ハントス科學ノ到ル處ニ意
 匠ノ徵証アルヲ証スルハ誤リナキトニシテミル氏ノ所謂ル自
 然ノ適合ニ由テ見レハ上智者ノ此世界ヲ創造シタルモノアル
 ニ近シトハ頗ル眞ナルニ似タリ而シテ假ヒ上智者アリテ此世

界ヲ創造シタリトノ説ヲ以テ其眞ヲ得タルモノトナスモ子等
 カ其不可思議論ノ基礎トセル耶穌教ノ默示ヲ信受スルコトハ予
 輩ノ心中最モ困難トスル所ナリ

第四、子等曰ク耶穌教ノ此國ニ來ルニハ名聲ノ之ニ伴ヘルヲ
 以テ大ニ流布スルノ望アリト此ノ如キ説ハ無學者社會ニ向テ
 ハ勢力ヲ得可キモ我國ノ學者ハ皆思ヘラク子等西洋人ハ耶穌
 教國ニ生レタルヲ以テ耶穌教ヲ信スルナリ若シ子等ヲシテ支
 那ニ生レシメハ佛トナラスンハ儒トナリ老トナラスンハ三者
 ヲ併信スルコト猶ホ支那人ノ如クナラント又子等ハ其父母教師
 ノ口ツカラ又ハ書ニ依テ耶穌教ノ道ヲ教ヘラレタルモノナレ
 ハ一千人中一人モ不可思議ナル宗教ノ證據ヲ研究シタルモノ
 アラサル可ク且經典ヲ以テ確實ナル默示ヲ説クノ書ナリトナ

シ敢テ躊躇スルモノアラサル可シ予輩思ヘラク子等ノ國ニ古
今正直ナル耶蘇教家ノ少カラサルハ猶ホ我國ノ佛教家中ニ正
直ナルモノアルニ異ナラスト而シテ子等ノ國ノ學者ノ其宗教
ヲ信受スルハ概テ皆世人ノ意ヲ迎フルモノニシテ之ニ逆ヘハ
則チ一身ノ安全ヲ害スレハナリ故ニ子等カ耶蘇教ノ日本ニ來
ルニハ最上文明國民ノ宗教タルノ名聲ヲ帶ルヲ以テ行ハレ易
シトスルノ事情ハ固ヨリ以テ重キヲ耶蘇教ニ置クニ足ラサル
ノミナラス全ク其他宗ニ勝レルモノニ非ルヲ証スルモノト云
フ可シ抑モ耶蘇教ノ始メテ歐洲ノ宗教トナリタルハ其半開ノ
時代ニアリテ爾來幾多ノ變遷ニ遇ヒ以テ今日ニ持續セルナリ
然ルニ子等ハ耶蘇教ハ世ノ文明國民ノ宗教ナリト云ヘリ試
ニ問ハン耶蘇教トハ何ソヤ子等若シ耶蘇教ナル名稱ヲ以テ盡

ク其三大派ヲモ含メルモノナリト言ハ、予ハ即チ耶蘇教三大
派中ノ二派ハ人類ノ思想ト其動作トヲ管理教導スルニ足ラサ
ルノミナラス子等カ文明ノ花ナリト誇稱スル改進ノ精神ト自
由トニ向テ大ナル妨碍ヲナスモノナリ云ハントス予思ヘラク
「スペイン」ノ舊教信者ノ如キハ我國ノ佛教信者ニシテ普通ノ智
識ヲ具ヘ文明ノ樂ム可キヲ覺レルモノニ比スレハ懸カニ背後
ニアリト云フ可ク且我無學ナル佛教信者ヲ以テ「گریーキ」派ノ
洗禮ヲ受ケタル耶蘇教家ニ比スレハ敢テ愧ル所ナキナリト子
等若シ此說ニ對シテ子カ云フ所ノ耶蘇教中ノ二大派カ予輩ノ
貴重スル自由ノ精神ヲ進メスシテ却テ之ヲ退クルヲ多キハ全
ク然リト雖新教ノ結果ハ全ク之ニ異ナレリト云ハ、予ハ又之
ニ對ヘテ言ハントス凡ソ宗教ノ輿論ニ一定セラレタル國ニ在

テハ其一定ノ教派ニ服セサルモノハ之ヲ斥ケテ異端者ト云ヒ
 而シテ最モ驚愕ス可キ獨斷說ヲ以テ真正ノ教トナシ敢テ憚ル
 所ナシ是レ古來耶蘇教ノ著者ノ唱道スル所ナレハナリ然ラハ
 則チ彼ノ輩ハ其新教ナルト舊教ナルトヲ問ハス盡ク傳説ノ奴
 隸ニシテ宗教外ニ獨立シテ之カ究察ヲナスコト能ハサルハ猶ホ
 科學、哲學ノ世界ニ於テモ僧侶ノ大集會ト寺頭トノ決議ニ妨ケ
 ラル、ニ同シク寺院ハ常ニ其信者ヲ戒メテ曰ク汝ハ此處マテ
 進ム可キモ是ヨリ一歩ヲ越ユ可ラスト而シテ新教信者カ其寺
 院ノ教法ヲ默受スルハ猶ホ舊教「グリーキ」教信者ノ其教法ニ於
 ルニ異ナラス蓋シ此ノ如クナル所以ノモノハ若シ深ク之ヲ究
 察セシムレハ向キニ默受シタル所トハ全ク異ナリタル結果ニ
 達シ終ニ左ニハ「アーノルド」ヲ生シ右ニハ「ハーリソン」ヲ出シ

ルハ前ニ顯ハレベイシハ後ニ呼ハ、ルニ至ル可ケレハナリ
 第五 子等カ國ノ文明ノ要素ハ全ク耶蘇教ナルヤ否ヤノ今ニ
 至テモ定論ナキハ子等ノ能ク知ル所ナリ而シテ假ヒ耶蘇教ヲ
 以テ其文明ノ要素ナリトナスモ予輩ハ耶蘇教ナル語中ニ含蓄
 セルモノヲ舉テ之ヲ取ラス只其要素ノミヲ取テ我カ改良シタ
 ル組織中ニ入ル、ヲ得ルナリ抑モ予輩ハ其要素中當時ノ氣風
 ニ適シ我カ人民ノ意向、感覺ニ應シタルモノ、ミヲ撰取シテ其
 他ヲ捨ルヲ得可ラサルカ予輩思ヘラク此ノ如クスルモ以テ我
 カ平生願フ所ノ外人ノ尊敬ヲ失フニ足ラスト何トナレハ内心
 之ヲ信セサルニ只政略上ヨリ其外面ヲ粧フモノニ倣ハンヨリ
 ハ寧ロ吾ハ未タ耶蘇教ノ本旨ヲ曉ラサルヲ以テ猶ホ之ヲ信セ
 スト云ハ、却テ吾ヲ尊重ス可ケレハナリ是レ予輩カ之ヲ信ス

ルト之ヲ拒ムトヲ論セス切ニ欺クナカラントヲ欲スルノ一証ナリ若シ予ノ説ニシテ誤ラスンハ當時ノ氣風ハ人民ノ意向ニ反シテ其凌辱ヲ招クモノナリ何トナレハ其自國ノ特別ナル宗教ハ其朋友郷黨ノ信スル所ニ非スシテ自國ト他國人ニシテ宗教上ノ意見ノ最モ反對シタル人ハ其莫逆ノ友ナレハナリ而シテ予輩カ政治上商業上ニ於ル外人トノ交際ハ互ニ正理ヲ守リテ親密ナルモノナレハ其宗教ヲ信スルト否トヲ以テ我ヲ疎遠ニスルノ原因トナサヘル可ケレハ爲メニ交際ノ親密ヲ害スルノ恐ナキナリ

第六、予ハ子カ宗教ヲ離レタル道義ハ頼ムニ足ラストノ説ニ答ヘテ實ニ子等ノ國ニ於テハ此ノ如クナル可キモ我カ國ニ於ル儒道ノ勢力ハ例外ノモノナルカ故ニ古來各國ノ宗教家カ傳

授シタル所ノ一要部ヲナセル道義元素ハ不可思議ナル問題ノ教條ニ合スル能ハサルモノト雖其男女ヲ通シテ廣大ナル勢力ヲ施シタルハ疑フ可ラサルナリト云ハントス若シ予ノ説ニシテ誤リナクンハ第十九世紀ニ在テ宗教ヲ離レタル道義ハ頗ル強固ナルヲ以テ道理力ノ益發達セントスルモノニハ懸カニ古來ノ道義ニ超越セルモノト云フ可シ抑モ今日ノ科學哲學ハ昔日ノ宗教ト同シク大ニ世々道義ヲ勸獎誘導スルヲ以テ宗教ニ由ラスシテ道義ヲ進ムルモノ日ニ増加シ且我カ國人中ニハ形質遺傳ノ理及ヒ生理學ヲ研究シ心體二者ノ結果ヲ知得シタルモノ少ナカラサルヲ以テ宗教ヲ本トシテ道義ヲ勸誘スルヲ要セサルナリ又之ヲ事實ニ考フルニ子等ノ國ノ耶穌教家中ニハ全ク不可思議ナル宗教ヲ棄テ、猶ホ依然道義ヲ失ハサルモノ

少ナカラサルニ非スヤ然ラハ則チ予輩其例ヲ追フモ亦何ノ不可カ之レアラシヤト

以上述ヘタル所ハ日本ノ學者ノ耶蘇教ニ付テノ議論ト其宗教ニ注意セル學者ノ思想トノ概略ヲ示シタルモノニシテ即チ予ハ東京ノ有名ナル著者論者ノ觀念論說ヲ陳列シタルニ過キヤルナリ

今日ノ有識ナル日本魂ハ昔年ニ比シテ更ニ不可思議ナル宗教ヲ信受スルノ傾向少ナキト已ニ此ノ如クナルヲ以テ予常ニ思ヘラク耶蘇教ハ下等社會ニハ多數ノ信者ヲ得可キモ學者ノ其正教派ヲ信スルモノハ甚タ少ナカラント而シテ佛教ノ巧妙ナル儀式ヲ見慣レタル人民ノ間ニ在テハ三大派中何レカ最多數ノ信者ヲ得可キヤト問フモノアラハ予ハ斷然之ニ答ヘテ云ハ

ントス此結果ヲ得可キモノハ新教ニ非スシテ舊教ニ非スンハ必スヤ「ギリキ」教ナル可シ蓋シ佛教ヲ出テ、此二教派ニ入ルハ敢テ難事ニ非ルナリト抑モ方今唯一教派ノ大ニ日本ニ行ハルハ決シテ驚クニ足ラス其米國ニ在テノ勢力ハ日本國人ノ已ニ聞知スル所ニシテ有名ナル學者ノ此教派ニ入り之ヲ信奉スルヲ公言シテ以テ耻トナサ、ルモノ少ナカラス又通常耶蘇教家ノ不正、害惡ナリト稱スル自然教ニシテ多少道義ノ基本ヲ耶蘇教ニ取レルモノ、稱賛者ヲ得可キハ疑フ可ラス且西洋哲學ノ目的トスル所ハ實學、實業ニアルヲ以テ必ス國人ノ注目スル所トナル可キナリ此ノ如ク信ヲ内外學者ノ論ニ置キ已ニ述タルカ如キ歴史ヲ以テ其實ヲ得タルモノトシテ之ヲ考フルハ教育ヲ受テ發達シタル日本魂ハ詩歌、神史、哲學、戰爭ヲ愛ス

レモ容易ニ宗教ノ儀式禮典ニ感染セシム可キ精神ニ非ス又假
ヒ微弱ナルモノト雖未來ノ世界アルトヲ信奉スルカ如キ精神
ニ非ルナリ

予ハ已ニ我カ見解ヲ下サント欲スル點ト我カ論歩ヲ進ム可キ
ノ路トヲ定メテ事實ヲ詳述スルトヲ勉メタレハ是ヨリ身ヲ以
テ論者ノ位地ニ置キ先ツ譯カニ我カ説ヲ妨碍スルモノ、根元
性質及ヒ區域ヲ論評シテ之ヲ驅逐セント欲スルナリ

宗教ト日本魂 第二

茲ニ進テ本論ニ入ラントスルニ方テ先ツ論定ス可キ問題アリ
(或ル假説ヲナスト注意ヲ要スル事實)由テ前提ヲ詳述シテ結論
ノ準備トナサ、ル可ラサルナリ

予ヲ以テ之ヲ見ルニ方今宗教上ノ問題ヲ論スルモノハ獨リ僧

侶ノミニ限ラス諸學派ノ俗人モ奮テ之ヲ辨論スルニ至リ此類
ノ學者ノ世ニ公ニシタル著書論説ハカノ僧侶カ其宗教ノ題目
ヲ説話シタルモノヨリモ懸カニ輿論ヲ教導スルノ勢力アルヲ
以テ其文學ノ結果タルカノ題目ヲ唱ヘテ利福ヲ求ムルカ如キ
徒ノ跡ヲ追ハスシテ自ヲ獨立壯快自由ノ精神ヲ發揮シテ決然
其公會ヲ去ルニ至リ爲メニ我カ大著者思辨家ヲシテ予輩ニ貽
ルニ其宗教上ノ至深ノ思想ト評決トヲ以テシタルノミナラス
専門家ニシテ宗教ニ關スル歷史上ノ大事件ヲ研究シ以テ哲學
者ノ爲メニ概括ヲナスニ緊要ナル事實ヲ聚輯排列シ且之カ抽
象ヲナストヲ勉メタルモノ少カラザレバ若シ其抽象ノ法ヲ究
メテ終極ニ至ラハ實形上ノ宗教ニ由テ許多ノ觀念ヲ表出シタ
ルカ如ク抽象上ノ宗教觀念ヲ起サシムルヤ必セリ

予ノ次ニ言ハント欲スル所ハ完全ナル教育ヲ受タル人ノ心ニ
ハ哲學ト宗教トハ相連結シテ離ル可ラサルモノナルト是ナリ
有識ナル「コンテンポラリーレビユー」ノ著者ハ此事ヲ論シテ曰
ク哲學ト宗教トハ互ニ相混同シタルモノナルヲ以テ隔離セシ
ムルヲ得可ラス蓋シ其真理ノ根本ハ共ニ同一ナルヲ以テ此ノ
至高ナル觀念ト關係ハ亦彼ノ至高ナル觀念ト關係トナリ宗教
ノ感シテ信スル所ノモノハ必ズ哲學ノ是非シテ知了セル所ニ
非ルハナシ故ニ宗教ハ直覺豫料ノ哲學ニシテ哲學ハ是非邪正
ヲ辨スルノ宗教ナリト抑モ古ヨリ宗教哲學ノ一ヲ辨明シタル
ハヘーゲル氏ニ如クハナシ氏ハ哲學ト宗教ヲ以テ同一ノモノ
トナシ又英獨兩國ニアリテ氏ノ流派ヲ酌ムモノモ此關係ニ付
テハ一意以テ氏ノ說ニ從ヘリ故ニ方今ノ學者ノ宗教上ノ意見

ヲ知ラント欲セハ只其哲學上ノ意見何如ヲ究ム可キノミ又博
士ケヤード氏ハ哲學ノ區域ヲ論定シテ曰ク凡ソ眞確ナルモノ
ハ正理ニ合フモノニシテ正理ニ合フモノハ哲學ノ論評スル所
ナリ之ヲ換言スレハ哲學ノ區域ハ有限相對ノモノニ非スシテ
無限絶對ノ眞理ナリ而シテ其目的トスル所ハ眼以テ見ル可ラ
サルモノハ果シテ何物ナルカト其存在スル所以ヲ發見シ目的
ト成果トヲ結合シテ思想ノ線内ニ置キ且萬物(神ノ本性ヲモ)ヲ
一括シテ之ニ超越セル終極ノ憑據ト道理トヲ發見スルニアリ
故ニ宗教ナルモノハ遠ク哲學ノ境域ヲ距ルモノニ非スシテ其
領分ハ最モ哲學ニ接近セルモノナリ何トナレハ宗教ト哲學ト
ハ同一ノ目的ト連續トヲ有シ宗教ヲ説ケハ同時ニ哲學ノ自ラ
明白トナル可キヲ以テナリト(宗教哲學第三丁)

予ハ本論ノ始メニ於テ宗教ナル語ヲ用フルニ普通ノ意義ヲ以テシテヨリ決シテ之ヲ變用シタルヲナシ何トナレハ古今時ヲ異ニスルモ其意義ニ著シキ變化ナケレハナリ然レ科學上或ハ哲學上ノ意義ヲ以テ論スレハ今日ノ如キ事々物々ノ益發達セントスル時ニ方テハ頗ル高等ノ位地ヲ占メ無生無死ノ眞珠ノ如クナラスシテ寧ロ善々然活動成長セル胚芽ニ似タルヲ見ルナリ抑宗教ノ觀念ノ未タ其最終ノ目的ニ達セサルモノニシテ自然ニ起因シタルモノ之ヲ自然教ト云ヒ特殊ノ默示ニ依ルト定マリタルモノ之ヲ不可思議教ト云フト雖其胚芽ニ類スルヤ同一ニシテ共ニ小心ノ人民ヲ驚異セシメ幾百年來絶ヘス成長シテ止マサルモノナリ然レ方今無雙ノ哲學者ニシテ此觀念ヲ信受固守スルモノアルハ耶穌教家タルト然ラサルトヲ問ハス

何人ト雖爭フ能ハサルノ事實ニシテ其證據ヲ引用スルハ極メテ容易ノコナレモ予ハ只耶穌教寺院ノ教師ナル二學者ノ著書中ヨリ少シク引用シテ以テ足レリトス可シ學士ジョンケヤ―
氏ハ其宗教哲學中ニ左ノ如キ說ヲナセリ曰ク正シク有機的發達ノ觀念ヲ解スレハ耶穌教家ノ要シテ以テ上帝或ハ不可思議ニ本キタル宗教トナスカ如キモノヲ含蓄スルヲナシト(三百四十七丁)又曰ク前陳ノ道理ト同シク人類ノ默示ニ安ンセサルニ至レハ道理ヲ探究シ得ルノミナラス必スヤ丁寧ニ思慮ヲ盡シ之ヲ究メテ其蘊奧ニ達シ以テ其偶然ナルモノヲ去テ之ヲ明白ナラシメ其有機的ノ唯一ヲ發達セシメ且之カ他ノ智識ノ元素ト結合セル所以ヲ尋究スルヲ得ルナリ之ヲ略言スレハ之ニ附スルニ予輩ノ哲學的ノ思想ト稱スル一種ノ智識ヲ以テス

ルヲ得ルナリ
 次ニ學ル所ハスコットランドセント、アンドリユー寺ノ博士ナ
 イト氏ノ説教文中ヨリ引用セルモノナリ氏ノ曰ク予輩ノ遠祖
 ノ信奉シタル宗教ハ其當時ノ觀相學社會ノ風習言語ト同一ナ
 ル程度ニアリテ今日ノ如キモノニハ非リシナル可シ故ニ次世
 ノ人ノ直覺力ハ前代ノ人ノ本性ニ比スレハ必ス穎敏明達ナリ
 シナル可シ而シテ其此ニ至レルハ數多ノ原因ノ相合シテ成レ
 ルモノナリト氏ハ又信仰ニ付テ説キテ曰ク一旦信仰ノ起ル
 ハ必ス漸次ニ增長シ現存セル異信ハ盡ク消滅セサル可ラス即
 チ方今ノ宗教上ノ爭論ノ如キハ信仰進化ノ變形ナルカ故ニ宗
 教ニシテ始終變動セサルモノナラシメハ之ヲ以テ變化ス可キ
 モノトナスハ非ニ似テ是ナルノ説ト云フ可シト

予ハ是ヨリ他ノ點ニ移テ論ス可シ抑モ日本ノ學者ヲシテ常ニ
 嫌厭ヲ抱カシムル所ノ不可思議ナル原素ハ果シテ耶蘇教及ヒ
 他ノ宗教ノ要素ナルカ此疑問ハ數年間烈シキ爭論ヲ起シタル
 所ノモノニシテ英國ニテ不可思議論ヲ排撃シタルノ最モ激切
 ナルモノハ正教派ノ保護者特ニ有名ナル博士ライトフー、ト氏
 (當時タルハムノ僧正)カ一千八百七十四年ト同五年ノ「コンテン
 ポラリー」レピユー」ノ紙上ニ顯ハレタル論説ヲ編輯シテ不可思
 議教ト稱シタル大冊子ニ如クモノナケレバ又予カ其間ニ入テ
 是非ヲ論スルヲ要セサルナリ而シテ一旦信者トナリタルモノ
 ハ假ヒ奇跡ヲ信セサルモ之ヲ破門ニ處ス可ラズトノ説ハ其信
 者ナルト否トヲ問ハズ次第ニ世上ニ勢力ヲ得ルヲ以テ知ル可
 キナリスコットランドニ有名ナルデイ、セイ、フェルグソン氏ハ

其四年前ニ出版シタル法律及ヒ奇跡論ト題スル訓言中ニ自己ノ説ト當時數百人ノ思想感覺ヲ表出シテ曰ク歴史上ノ取捨折衷ヨリ生シタル結果ノ著明ナル例ハ奇跡ノ教ナリトス何トナレハ此教ハ古來ノ如ク高キ地歩ヲ有セサレハナリ蓋シ前世紀中ノ爭論ハ默示ヲ以テ盡ク成果ニ依ルトナシ然ル後奇跡ノ信ス可キト然ラサルトヲ爭ヒタルモノニシテ全ク支那牙營ニ過キサリシヲ以テ互ニカヲ攻防ニ盡シタルモ更ニ默示ノ本據ヲ害セサルカ故ニ未タ以テ滿城ノ安危ヲ決スルニ足ラザリシナリ夫レ然リ哲學者ト神學者ハ此ノ如ク奇跡ヲ論シタレヒ耶蘇教ノ根本ヲ尋テスシテ唯枝葉ニノミ走リタルヲ以テ勝敗何レニ歸スルモ更ニ變動ヲ生スルヲナシ一言以テ之ヲ蔽ヘハ纒カニ寺院ノ一教條ヲ破リタルモ其他ノ教條ト耶蘇ノ宗教トハ決

シテ敗レタルモノニ非ルナリ然ルニ今ノ時ニ方テ耶蘇ヲ信スルハ多少其奇跡ヲ行ヒタルカ爲メナリト云フカ如キハ宛モ砂上ニ築キタル家屋ノ如キノミ假ヒ其權力ヲシテ大ナラシムルモ以テ上帝ノ眞理トナスヲ得サルナリ又新約全書中ノ奇跡ヲ以テ耶蘇教ノ神ヨリ來レルノ徵証ナリトナスキハ其自然ヲ制スルノ權力ヲ有スルハ以テ其上帝ノ眞理ト智識トヲ示スモノナリト云フニ異ナラス(此ノ如キノ假説ハ思慮ヲ費スヲ要セス人類ノ日々經驗スル所ニ背馳スルノミナラス經典ノ教フル處ニ背戻シテ宛モ使者ノ言ノ書信ニ契ハサルカ如シ)故ニ新約全書中ノ奇跡ヲ排斥スルモノヲ稱シテ耶蘇教ノ信者ニ非ストナスハ篤論ニ非ルナリ若シ此ノ如クナルキハ不學無術ノ徒ニ反シテ思慮アリ尊敬ス可キ信者ヲ逐テ其門ヲ去ラシムルモノ

ナリ然レ自然ノ默示ノ深ク其腦裡ニ感傳シタルモノハ有力ナル反對説ヲシテ一撃ノ下之ヲ破碎スルニ非レハ異説ノ之ヲ攻ムルアルモ容易ニ其信仰ヲ變スル能ハサル可キナリト今予ノ論シ來リタル假説ヲ約言スレハ學者ノ心中哲學ト宗教トハ相連結シテ離ル可ラサルモノナルヲ以テ大宗教ノ問題ヲ論シ其是非ヲ定ムルハ哲學者ノ主トシテ勉ム可キ所ナリト云フニアリ蓋シ宗教ハ猶ホ發達ノ進路ニアルモノニシテ未タ其終極ニ達シタリト云フ可ラス而シテ其元素ノ不可思議ナルハ宗教ノ主要ナル元素ニ非ルヲ以テ予ハ今新タニ之カ定義ヲ下シ其果シテ有識ナル日本魂ノ性質ニ反スルヤ否ヤヲ論究セントス

ハーバート、スペンサー氏ノ議論ハ頗ル優妙ナレレ其宗教論ノ

淺薄不經ナルヲハ西洋ノ學者ノ能ク知悉セル所ナリ氏并ニ二三ノ著者ハ宗教ヲ以テ人心ノ失序ヨリ來レルモノニシテ其常態ヨリセシモノニ非ストナセリ此學派ノ説ニ從ヘハ人生ノ信仰理想、欲望ノ至高至貴ニシテ且至妙ナルモノハ野蠻ノ徒カ或ハ魔魘ヲ恐怖シ或ハ夢ヲ混亂シタルモノニ外ナラストナスナリ又此派ノ諸氏ノ説ニ從ヘハ予輩ノ祖先ノ宗教ハ不可思議ノ感覺ニ始終スルモノトナスナリ然レ宗教ノ起原ヲ以テ此ノ如キモノトナスノ盡ク歷史上ノ大事實ニ反スルヲハ頗ル明瞭ナルヲ以テ茲ニ論スルヲ要セサル可シ此理論ハ老練ナル人ヨリ相當ノ待遇ヲ受ケ四方ヨリ極メテ酷虐ノ批評ヲ得、詩人、歴史家、哲學者、博言學者及ヒ神學者等ハ其歴史ノ事實ノ解釋法ハ理ニ背キ實ヲ失ヒタルモノナリトシテ其罪ヲ鳴ラセリ茲ニ又宗教

ヲ修ムルニ頗ル崇敬ノ精神ヲ以テスル一學派アリテ宗教ノ元素ハ感覺ニナレリト云ヘリ此說ヲ唱導スルモノハシユレールマヘル氏ニシテ英米二國ニハ之ニ從フモノ頗ル多シトス而シテ此派ノ學者カ感覺ヲ以テ宗教ノ元素ナリトナス所以ハ較他ノ學派ニ異ナリテ或ハ曰ク憑依ノ感覺ナリト或ハ曰ク恐怖ナリト曰ク欽仰ナリ曰ク愛情ナリト此ノ如キ學術上ノ定義ニ從ヘハ其耶蘇教徒タルト然ラサルトヲ問ハス緊密ナル情緒ノ感覺ハ緊密ナル宗教ノ感覺ト同一ナリトノ總念ニ基キタル宗教上ノ生活動作ハ決シテ鮮少ナラス或ハ男女ノ公然人民ノ感覺ヲ刺激セント欲シテ耶蘇教諸國ヲ周遊スルモノアリ然ルニ思想派ノ起テ宗教ヲ扶持シ死力ヲ出シテ以上諸派ノ理論ニ抵抗スルハ蓋シ宗教ノ幸ト云フ可キナリ

古ヨリ宗教哲學ハ感覺ニ外ナラストナシタル說ヲ破テ之ヲ救出シタルノ功勞ハヘーゲル氏ニアリトス氏ノ宗教哲學ト稱スル著書ハ世人ノ思想ニ新方向ヲ與ヘタルモノニシテ其深遠ナル概念及ヒ創造ノ觀念ハ英米兩國ノ著者ニ與フルニ貴重ノ材料ヲ以テシタルモノナリヘーゲル派諸氏ノ說ニ從ヘハ宗教ハ必ス思想道理ノ正義ニ合ヘルモノニシテ思想ト感覺ハ相離ル可ウサルノ說ト或ル概念力ハ必ス或ル感覺ヲ起スモノナリトノ說ヲ不可トセサレヒ宗教ノ要素ハ感覺ナリトノ說ハ蓋シ其容レサル所ナリ博士ケヤード氏ハ英國中此學派ノ稱主ニシテ其品行ノ清廉言語ノ明亮論理ノ有力ナルトハ英國人ヲシテ普ク其書ヲ愛讀セシムルニ至レリ今予ハ氏ノ宗教哲學中ヨリ予ノ今論シ來レル疑問ニ係レル數節ヲ引用ス可シ

感覺ヲ以テ宗教ノ要素トナスハ撞着ノ説タルヲ免レス何ト
 ナレハ只感覺ノミヨリナレル宗教ハ自ラ其宗教タルヲ知ラ
 サル可ケレハナリ抑モ我カ知ル所ノ客觀ニ於ル概念ノ力或
 ハ憑據ノ明白ナルモノナキハ宗教ノ感覺ト其他ノ感覺ト
 ヲ辨別シ其感覺ニ付スルニ特殊ノ性質ヲ以テシ或ハ其感覺
 ノ有無ヲ判別スルヲ能ハサルナリ予ハ全ク五官ノ感覺ト異
 ナリタル道義或ハ宗教ノ感覺中ノ一種ニ付テ論スルヲ能ハ
 ス何トナレハ自知ノ憑據ト其客觀ノ定義ヨリ離レタル後予
 ノ感覺ニ付テ知ル所ハ即チ一ノ感覺ヲ取テ他ニ比スレハ多
 少活潑ナルカ多少苦樂ヲ感スルカト云フニ過キサルナリ蓋
 シ感覺ノ境內ニ在テ唯學派ノ熱望スル所ト神聖派ノ推重ス
 ル所ハ全ク同一ニシテ更ニ其條理ヲ異ニセル所ナシ又感覺

ノ緊密ナルハ獨リ客觀ノ本性ノミナラス各自ノ性質稟氣ニ
 依テ定マルモノナリ故ニ同一ノ客觀モ各人ノ心ニ由テ其快
 活ノ度ヲ異ニシ又一人ノ心ニテモ時ヲ異ニスレハ感覺ヲ同
 フセサルヲアリ宗教ニ至テモ各自ノ感覺ノ如キ變動シ易キ
 モノヲ取テ客觀的ノ標準トナスヲ能ハス若シ情緒ノ緊密ナ
 ルヲノ眞實ナルヲ明カニスレハ則チ宗教ハ禮拜者ノ胸中ニ
 發起セル感覺ノ快活ナルニ依ルモノトナスキハ純全ナル耶
 蘇教家ノ信仰ハ同宗中ノ腐敗シタル宗法ノミナラス蒙昧不
 靈ノ自然拜教即チ拜物教ニ比シテ毫モ優レル所ナキカ如シ
 更ニ進テ此理ヲ論シテ其極ニ至レハ宗教ハ人ノ精神ト上帝
 トノ關係ナルヲ以テ最モ能ク無極ノ客觀ニ符合セル人間即
 チ主觀的ノ探究ヲナセハ終ニ感覺ニ至テ止マル可キヲ發見

スルナリ何トナレバ我カ天性ノ特質ハ個別ニシテ變幻ス可ク且偶然ノモノナルヲ以テ客觀ノ本眞觀念ノ普遍不動緊要ナルモノニ符合スルヲ能ハス即チ之ト關係ヲ生スルヲ能ハサレハナリ(一百七十三、四丁)

博士ケヤード氏ハ知識ヲ以テ宗教ノ要素トナシ左ノ如キ説ヲナセリ

各自ノ宗教上ノ性質即チ古ヨリ一國民或ハ一人種カ世界ノ宗教歴史ニ施シタル進歩ヲ考フルニ其主トシテ討究ス可キモノハ其宗教上ノ觀念ト信仰トノ客觀的ノ性質ニアリテ第一ノ疑問ハ其何如ニ感スルカニ非スシテ何ヲ考へ何ヲ信スルカニアルナリ

氏ノ説ニ依レハ宗教ノ要素ハ思想ト智識ニアリテ宗教ハ自ラ

合理ノ基礎ヲ有スルモノナルカ如シ氏曰ク全ク道理ニ適ハサルモノハ信仰スルヲ能ハサルモノニシテ人ノ默示ニ依信スルモノハ其言ハスシテ理ニ合ヒ明々白々ノ權カヲ有シ即チ人類ノ精神ニ道義ノ勢力ヲ施スヲ得ルニ由ルナリト(七十八丁)

今宗教ニ下スニ此見解ヲ以テスルキハ宗教ハ果シテ日本魂ニ背戻シタルモノアルカ或ハ之アラサル可ラサルカ予ハ以テ然リトナサ、ルナリ若シ宗教ハ考へ出スヲ得可ク議論ノ上ニ存シ且盡ク合理ノモノナリトセハ日本ノ學者カ之ヲ信奉シ之ヲ施爲セサルノ理由ナキナリ若シ此ノ如ク宗教ハ只情緒ニ過キストノ見解ヲ取ルキハ耶蘇教ハ未タ日本魂ニ習染セサル日本ノ有識者ノ宗教トナル可シトノ意見ハ暫ラク之ヲ許サ、ルヲ得ス而シテ一物ノ日本ノ士人カ平居侮慢スル所ノモノニ優

レルアラハ其情緒ノ感覺ヲ啓クヤ明カナリ且予ハ此國ニアル
 耶蘇教ノ傳道者ニシテ男女ノ悲歎泣涕呻吟ヲ促カシテ再興ノ
 運動ト稱スルモノヲ喚起セント欲スルカ爲メニ日本魂ノ侮慢
 嘲笑ヲ招クハ純全合理ノ耶蘇宣教師ノミナラス日本ニ耶蘇教
 ヲ弘メント欲スルモノ、見テ以テ悲哀ニ堪ヘズトナス所ナレ
 且未タ其實情ヲ得サルモノアリト云ハントスルナリ若シ宗教
 ノ要素ハ一人ノ性質一國民ノ歴史ニ顯ハル、カ如ク上帝ヲ知
 得スルニアリテ宗教ヲ講究スルニハ客觀主觀有極無極人間上
 帝トノ關係ヲ講究スルニアリ且舊新兩約全書或ハ其他ノ宗教
 書中ニ(何トナレハ凡テ此等ノ默示ハ獨リ著者ノ間ニノミ許與
 セラレタルモノナリトナスコ能ハサレハ)録スル所ノ默示ハ凡
 テ他ノ境域ヨリ生シタル智識ト相離レタルモノニ非スシテ之

ト比較シ且改更シ得可キモノナラシメハ始メテ日本ノ顯教有
 爲ノ少年ヲシテ宗教上ノ智識ハ他ノ學術ト同シク有利有益ノ
 モノナルコトヲ覺ラシム可キナリ

耶蘇教信者ノ禮拜及ヒ宗教上ノ禮典儀式ヲ以テ宗教ノ要素ト
 ナスノ間ハ日本魂ハ終ニ其分量性質ヲ斷定スルヲ得サル可シ
 此ノ如キ宗教ノ法式習慣ハ予輩西洋人ノ習熟セル所ナレ且日
 本人ノ總念ニ合セス且其感覺ニ適セサルヲ以テカノ上帝ニ頌
 歌ヲ捧クルカ如キハ日本人ノ眼ヲ以テ看レハ最モ奇異ノコトニ
 シテ之ヲ以テ耶蘇教ノ禮拜ニ欠ク可ラサルモノトナスハ耶蘇
 教ヲ弘ムルノ方法ヲ誤マルノ根本ナリ而シテ草議ナル耶蘇教
 家ノ此慣習ヲ以テ公拜ノ要部トナサ、ルモノ多キハ爭フ可ラ
 サルノ事實ニシテ新タニ一國民ノ間ニ耶蘇教ヲ弘メント欲ス

ルニ方テ此慣習ノ爲メニ其人民ノ心中ニ嘲笑ヲ起スカ如キ國ニ在テハ必ス此見解ヲ有セサル可ラス且禮拜ハ合理ノ基礎ヲ有セサルコトヲ主張スルモノハ此言語ノ音調ハ彼ノ言語ノ音調ヨリ上帝ヲ樂マシムルコト多シト云フコト能ハサルナリ若シ此ノ如キ禮拜法ハ其禮拜者ノ心意ヲ慎重、溫和、喜樂ナラシムト云ハ、日本人ハ之ニ答ヘテ云ハン此ノ如キ法式ハ予輩ニ取テ更ニ斯ル効驗ヲ有セス何トナレハ予輩ノ和合ノ觀念ハ子等ニ異ナリ予輩ノ音樂ハ子等ノ音樂ト其合力ヲ同フセサルヲ以テ予輩自己ノ音調ヲ以テ耶穌教ノ頌歌ヲ唱ヘントスルモ猶ホ予輩ノ習熟セル所ノ者ニ協ハサルナリト

予ハ異種ノ國民ヲシテ我ト同一ノ宗教ヲ信奉セシムルニ方テ其禮拜法、禮典、儀式ヲシテ各國民ノ思想ノ風習ニ一致セシムル

ノ方法ヲ論シタレト僅々一二ノ新聞紙上ニ論盡シ得ル所ニ非ルナリ蓋シ思ヘラク耶穌教ハ此ノ如キ事ニ付テ至廣ノ自由ヲ與フレハ之ヲ弘ムルニ便ナル可キヲ以テ若シ本國ノ教會ヨリ派遣セラレタル宣教師ニシテ日本其他ノ諸國ニ寺院ヲ勸建スルノ權ヲ附與セラレタルモノハ相當ノ區域内ニテハ其熱心ナル信仰ヲ用非テ此等ノコトヲ執行ス可キナリト

然リ而シテ予カ宗教上ノ見解ノ通常ノ道義ニ異ナルモノハ其思想ノ法式タルカ爲メニシテ他ノ論理的結論ト同シク前提ニ存シテ何レノ關係ニ於テモ思想ノ通則ト相協一セル許多ノ結論ヨリ成リ而シテ其結論ハ予輩ノ上帝ニ於ル關係ト是ヨリ起ル所ノ義務トノ性質ニ由ルモノナリ此ノ如キ見解ヲ以テスレハ予ハ宗教ノ更ニ日本魂ニ適ハサル所アルヲ見ス而シテ予ハ

議論ノ都合ニ由テ宗教ト道義トヲ分テ別物トシテ論シタレド
決シテ此ノ如キ區別アルニアラス二者ハ共立シテ離レサルモ
ノナルヲ以テ宗教ノ強弱ハ其道義法ノ性質ニ由テ之ヲ推知ス
ルヲ常トス而シテ人類ハ其最モ接近スルモノニ感スルカ故ニ
日夜安危ヲ共ニスル同種族ノ爲メニ力ヲ盡スハ其最モ樂ム所
ニシテ婦女子ノ位地、父母ノ子ニ對スルノ義務、子ノ父母ニ對ス
ルノ義務、姻族ノ性質、政府ノ國民ニ對スル道義上ノ義務、貧富強
弱相互ノ關係ノ性質、各個人ノ自由ノ性質及ヒ限界即チ一言以
テ之ヲ蔽ヘハ他愛主義ト自愛主義トノ關係ハ道義ノ問題ノ未
タ確乎タル傳教法ヲ得サルモノナリ而シテ未タ耶蘇教ニ勝レ
ル道義ノ法則ナキハ各國民ノ宣言スル所ニシテミル氏ノ如キ
モ世間未タ基督ノ如キ道義ノ教師ナシト云ヘリ故ニ若シ耶蘇

教ノ道義、教法ニシテ新約書ニ云ヘルカ如キ卓越ナルモノナラ
シメハ予ハ日本魂ノ漸ク其精神ト相混和シ遂ニ福澤氏ノ所謂
ル耶蘇教國ニ生レテ教育セラレタル外人ト親密ノ交際ヲナス
ノ要素タルノ狀體ニ達スルニ至ル可シト雖耶蘇教カ有識ナル
日本人中ニ流布スルニハ正教派ト稱スルモノ、教文、教條ノ之
カ妨碍ヲナスヤ否ヤハ予ノ敢テ言フ能ハサル所ナリ而シテ日
本ノ大新聞ノ宗教上ノ思想ノ進歩ト日本ノ最良ナル學者ノ論
理的ノ結論并ニ寬闊ナル見解ハ以テ日本ノ多數ノ信者ヲシテ
他ノ各國ニ於ルカ如ク有識ナル人民ノ間ニ普ク勢力ヲ得セシ
ム可キヤ否ヤハ他日其狀體ニ達シタルト非レハ得テ言フ可
ラスト雖當時ノ有識ナル日本人ハ其不可思議論ニ反スル自然
ノ情意ヲ有スルノミナラス不可思議論ニ基キタル宗教道義ハ

砂上ニ築ケル家屋ノ如シトノ説ヲ主張セル人々ノ書ヲ汎讀セ
 ルコトハ誤リナキノ事實ナルヲ以テ耶蘇宣教師カ其洗禮ヲ行フ
 ニ方テ奇跡ヲ信セシメント欲スルノ間ハ決シテ其信者トナラ
 サル可キナリ然レ平素耶蘇教家ノ動機ニ鼓舞セラレ且全ク耶
 蘇教家ノ生活ヲナセルモノヲシテ耶蘇教ノ精神ヲ吸收セシメ
 サラント欲スルハ得テ爲ス可ラザルコトニシテ爲メニ益其熱心
 ヲ加ヘシムルヤ更ニ疑フ可ラサルナリ
 近頃ノ時事新報カ後來ノ日本ノ耶蘇教ヲ論シタルモノハ之ヲ
 其下等社會ニ適用ス可シト雖有識者ノ間ニ施ス可ラス而シテ
 予輩若シ識者ヲ以テ考案ノ外ニ置クキハ又思想ノ先導者新聞
 ノ記者演說會ノ辨者ノ如キ苟モ下等社會ヲ左右スルノ機關ヲ
 運轉スルモノモ亦共ニ考案ノ外ニ置カサル可ラサルナリ

以上論シ來レル所ハ只曖昧ナル宗教論ニ投スルニ數條ノ光線
 ヲ以テシタルノミニシテ予カ此ノ如キ見解ヲ抱クニ至リタル
 ハ數年間詳カニ宗教ト日本魂トヲ研究シタルノ結果ナリ予ハ
 今宗教論ニ於ル哲學的思辨ノ紀元ヲ作リタル一著者ノ言ヲ借
 リ以テ本論ヲ終ラントス其言ハ數年以來世上ニ議論ヲ起シタ
 ル大問題ニシテ不可思議論ハ以テ耶蘇教ノ要素トナス可キヤ
 否ヤニアリ著者曰ク

故ニ予云フ耶蘇教ヲ以テ其蘇生ノ奇跡ト共ニ興敗スルモノ
 トナシ且之ヲ以テ疑フ可キ出來事ノ狹隘ナル基礎ニ由ラス
 却テ「ヘブリユ」ノ宗教豫言及ヒ耶蘇帝國ノ各國民ノ歴史上
 ノ結合ニ由レリトナスモノハ蓋シ過テリト若シ此言ニシテ
 不可ナカラシメハ耶蘇教ノ傳説中奇跡ニ涉ラサル部分ハ永

ク不可思議論ノ是非ヲ免レタルノ價值ヲ有スルモノナリ而シテ此ノ如クニシテ此奇跡ニ涉ラサル部分ヲシテ始メテ昭昭タル光輝ニ遇ハシメハ則チ人類ノ歴史ノ全体ヲ明カニシ由テ以テ其新奇廣大ナル概念ヲ起サシメ遂ニ宗教ノ信ヲ措ク可キモノタルヲ知ラシムルニ至ル可シ蓋シ此ノ如クニシテ發生シタル宗教ハ盡ク有力活潑ナルモノトス何トナレハ不可思議ナル宗教ニ比スレハ頗ル輿望ニ協ヘルヲ以テナリ而シテ不可思議ナル宗教ハ世人ノ想像スルカ如ク社會ニ力アルモノニアラス又左程世界ヲ改良シタルモノニモ非ス而シテ其効ナキ所以ノモノハ主トシテ其不可思議論ヲ説キタルト慢リニカヲ盡シテ來世ノ生活ヲ説キタルニ由ルヤ明カニシテ一方ニハ熱心以テ來世ノ生活ヲ求メ一方ニハ之ヲ求

ムルニ汲々タルガ爲メニ現世ノ生活ヲ以テ來世ニ如カストナスニ至レリ蓋シ正教派ハ實際常ニ此誤謬ニ陷レリ何トナレハ其來世ノ生活ヲ夢想スルノ妄談ナルハ極メテ明白ナレハナリ凡テ國家ト國民ノ命運ハ此ノ如キ歴史上ノ夢想ノ爲メニ凋衰シ去テ僧侶ヲ除クノ外ハ盡ク靜寂敎家トナリ我カ身ヲ本トシテ而モ私欲ニ流レス又經典ノ宗教ノ如ク歴史ト終始シ且盡ク歴史上ノ變化ヲ妨碍シ時間變化發達トヲ以テ主觀トナシ以テ其確定シタル客觀ヲ沈思熟慮シ遂ニ已ヲ忘ル、ニ至ルノ宗教ヲ起ス可キナリ(自然宗教二百四十三丁)

12/35

明治十九年六月二十三日版權免許
同年七月出版

定價金二十錢

譯者

岡山縣土族

河田 鱗也

府下本郷區森川町
壹番地寄留

出版人

兵庫縣土族

長尾 景弼

府下芝區愛宕下町
三丁目壹番地寄留

東京銀坐四丁目

博聞本社

大阪備後町四丁目

全分社

千葉縣下千葉町

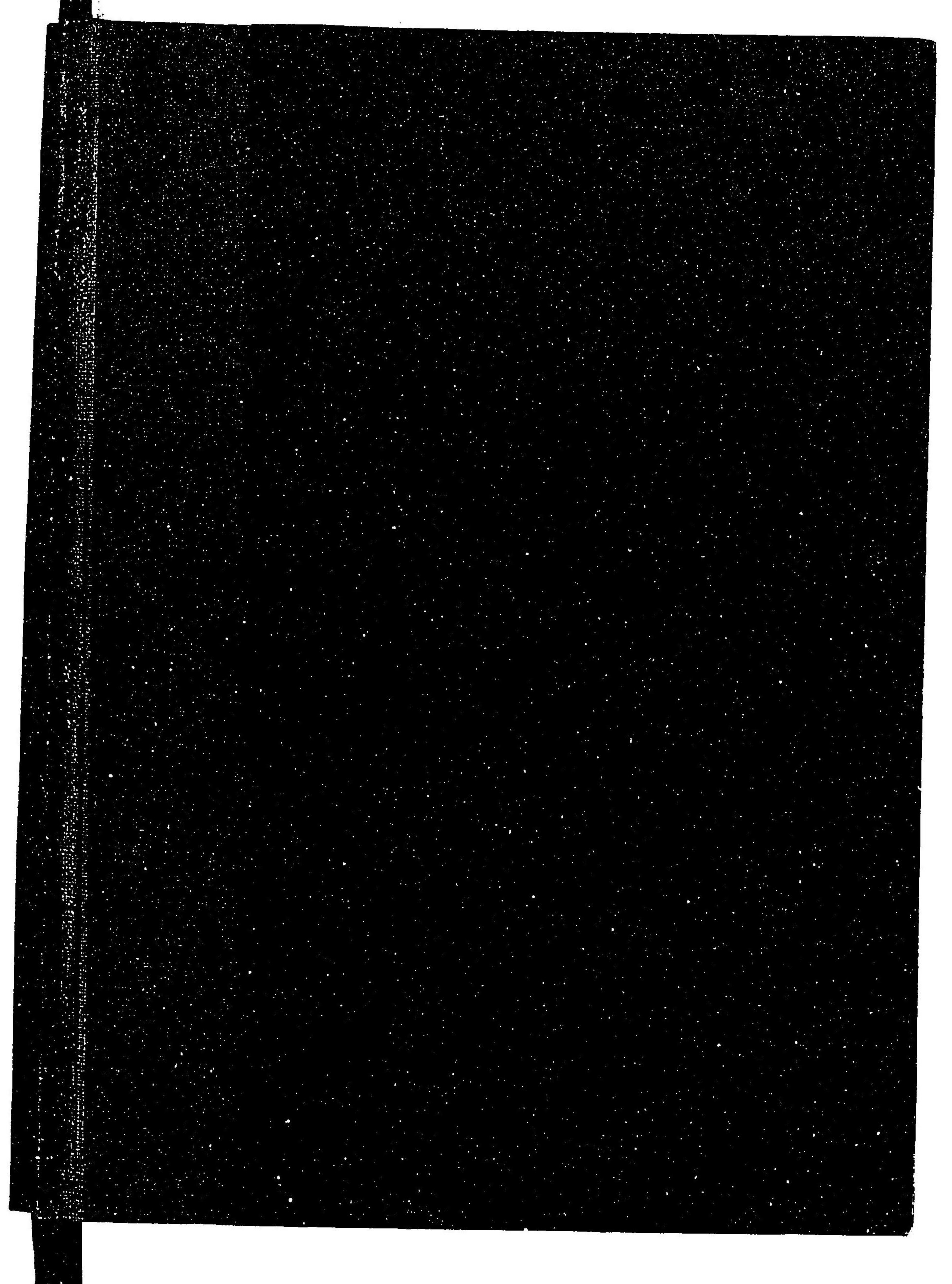
全分社

埼玉縣下浦和驛

全分社

賣 捌 所

18
44



18
44

013641-000-8

18-44

宗教と日本魂

デニング/著

M19

ABA-0110



25.12.18